「自己肯定アンケート」
報告書

2010年７月

子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル実行委員会
自己肯定アンケート編集委員会

発刊にあたって

何事に依らず、すべてに光と闇はあるのだと私は考えています。悪があるからこそ善があり、悪魔がいて神の存在が意味を持つというように――。両者は切り離すことのできない一対の存在なのではないでしょうか。

人間の心のありようもしかりで、自分の長所と思っているところが裏からみれば短所になり、短所と思っている部分の半分は長所だったりするものです。だからこそ自分のすべてを丸ごと受け入れることがとても重要になるのだと思います。どんなに厳しい“できるできない”の世界に晒されていたとしても、できる自分もできない自分も自分なのですから。

にもかかわらず、今子どもたちは、ありのままの自分を“ I am OK ”できずに苦しんでいます。当然の結果として“ You are OK ”もできずにいます。

子どもたちがここまで追い詰められている理由は、すでに様々な分析がなされていますし、国連の子どもの権利委員会からも指摘を受けています。それらをふまえて、今回のフォーラム（子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル） で私たちは、高校生で実行委員会を組織して、三重県の子どもたちの自己肯定アンケートに取り組むことにいたしました。

県や市の教育委員会をはじめ、取り組んで下さった学校現場のご協力があって、22,518 人の子どもから回答をいただきました。この貴重な回答結果は、彼等彼女等の健やかな育ちが保障される子どもの権利条例づくりなど、社会基盤整備にそして施策に反映させていきたいと思っています。

報告書の作成は、回答をして下さった 22,518 人の子どもたち、先述の県や市の教育委員会や学校現場、そして自己肯定アンケート実行委員会の高校生のみなさん、サポーターとしてかかわって下さった方々、また分析にご協力いただいた梶先生・小池先生と、本当に大勢の方々のお力のお陰です。みなさまに心から感謝を申し上げます。

子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル実行委員会
実行委員長　田部　眞樹子

目　次

Ⅰ　自己肯定アンケートについて　…… 1
1. アンケートの目的
2. アンケートへの取り組み

Ⅱ　アンケート調査の概要　…… 2
1. 調査地域
2. 調査対象および標本数
3. 調査方法
4. 調査のスケジュールおよび期間
5. 調査内容

Ⅲ　アンケートの結果および分析　…… 3
1. 回収結果
2. 単純集計
3. 小学生（低学年）・小学生（高学年）・中学生・高校生別結果および分析
4. 四本柱に沿った分析
(a) 自信について
(b) 認め合うこと・本音について
(c) 長所と短所について
(d) 周りと自分について

Ⅳ　自己肯定アンケート実行委員会の取り組みと「うちらの想い」…… 17
1. 座談会
2. 小学生（低学年）・小学生（高学年）・中学生・高校生別結果および分析
3. 四本柱に沿った分析に基づくメッセージ
(a) 自信について →「自分のことを好きになろう！できない自分も自分自身」
(b) 認め合うこと・本音について →「心を受け止めてくれる人をまわりにつくろう！」
(c) 長所と短所について →「できることが長所なの？」
(d) 周りと自分について →「自分の想いを伝えよう」

＜資料＞　…… 28
アンケート用紙
子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル

Ⅰ　自己肯定アンケートについて

1. アンケートの目的

『子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル』(2010年2月開催)に向け、『第16回子どもの権利条約フォーラム2008 in みえ』(2009年開催)の取り組みをベースに、子どもの権利について「子育ち」の視点を地域に広め、子どもの声を施策づくりに生かすことを目的とします。

2. アンケートの取り組み

主体者である子どもを対象とした自己肯定感についてのアンケトートを『子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル』実行委員会が実施し、その実施に向けての過程を大切にし、さらに具体的に自治体レベルの「子ども権利条例づくり」に向けての動きにつなげていくものとしました。

具体的に、自己肯定アンケート実行委員会で子どもが主体者となる子ども参画の場を創りました。高校生から実行委員を募集し、県内各地から集まった8名により実行委員会を立ち上げました。大学生2名(三重大学教育学部)がアンケート実行委員会のファシリテートを行い、アンケートの設問を作りました。アンケートの配付・回収・集計は『子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル』実行委員会に所属する団体が地域毎に行いました。高校については実行委員の高校生が中心になって集計を行いました。

『子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル』(2010年2月27・28日)では、結果をグラフ化して速報値として会場に掲示、高校生の自己肯定アンケート実行委員がアンケートの結果に基づき創作劇を企画し、高校生の想いを発表しました。

【アンケートの分析及び結果】

回収したアンケートの結果をデータ化し、公正な立場(専門家)として梶美保先生、小池はるか先生に分析を依頼しました。『Ⅲアンケートの結果及び分析 3 ・ 4 』(P10～16)にまとめました。また、自己肯定アンケート実行委員会にて独自に分析を行い、『Ⅳ自己肯定アンケート実行委員会の取り組みと「うちらの想い」 2 ・ 3』 (P20～P27)にまとめました。

梶　美保　 中部大学現代教育学部 准教授(社会科学修士)専門:幼児教育学 小児保健
子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル実行委員
小池 はるか 高田短期大学子ども学科 助教(心理学博士)専門:発達心理学 社会心理学

【結果の利用】

報告書については、自己肯定アンケート実施にご協力をいただいた学校、団体、関係機関に届け、結果についての報告を行います。また、子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバルに参画している三重県や市町の「子どもの権利条例づくり」に向けた取り組みに活用していきます。共催者である津市、松阪市においては、アンケートの結果だけでなく、具体的に平成22年度からの「子どもの権利条例」制定に向けた取り組みに反映していきます。この協働の過程で得られたことは、三重県及び各市町において子どもに関する施策全般に反映していきたいと思います。

Ⅱ　アンケート調査の概要

1．調査地域

三重県内

2．調査対象

三重県内の小学生以上の子ども

3．調査方法

小学校、中学校、高等学校、学童保育、サークル等対象者が存在する場所、団体、機関に無記名質問紙により実施する。説明及び同意に対しては教員、担当者に説明をお願いし、質問紙の提出を持って同意があるとしました。

4．調査のスケジュールおよび期間

2009年11月23日～	自己肯定アンケート実行委員会発足・アンケート設問作り
2010年1月24日～2月　6日	アンケート配布期間
2月　7日～2月13日	アンケート回収期間
2月14日～2月26日	データ化及び発表方法検討
2月27日～2月28日	子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバルで概略版発表
3月～4月中旬	アンケート結果の分析検討　第三者（専門家）へ分析依頼
4月～6月	報告書のまとめについて実行委員会にて検討
7月	報告書作成　アンケート実施校への結果報告

5．調査内容

以下の4点のカテゴリの内容で高校生版を作成し、それを基本として中学校・小学校（低学年・高学年）を作成した（アンケート調査用紙については、資料　P28、29参照）。

＜4本柱に沿って＞

a. 自信について

b. 認め合うことについて

c. 長所・短所について

d. 周りと自分について

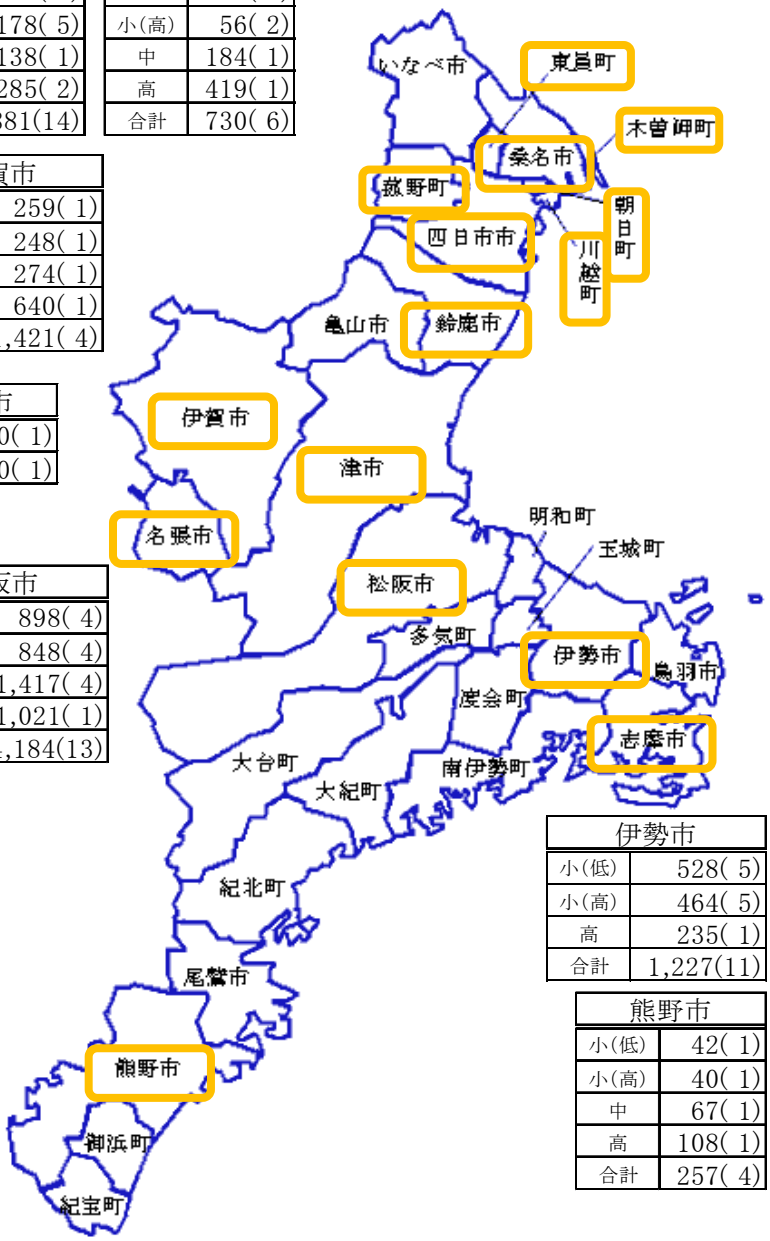
Ⅲ　アンケートの結果および分析

1．回収結果

三重県内、15 市町、136 の学校や学童より 22,518 人のアンケートを回収しました。その内訳は以下のとおりです。

＜全体＞　　（ ）の数字は、協力を得た学校や学童の数

小学校低学年	小学校高学年	中学校	高等学校	合計
4,471(45)	4,511(43)	6,188(28)	7,348(20)	22,518(136)



四日市市	
小(低)	280(6)
小(高)	178(5)
中	138(1)
高	285(2)
合計	881(14)

菰野町	
小(低)	71(2)
小(高)	56(2)
中	184(1)
高	419(1)
合計	730(6)

東員町	
小(低)	134(1)
小(高)	123(1)
中	236(1)
合計	493(3)

桑名市	
小(低)	136(2)
小(高)	368(1)
中	255(1)
高	223(2)
合計	982(6)

木曽岬町	
小(低)	152(1)
小(高)	170(1)
中	123(1)
合計	322(3)

伊賀市	
小(低)	259(1)
小(高)	248(1)
中	274(1)
高	640(1)
合計	1,421(4)

朝日町	
小(高)	101(1)
中	70(1)
合計	171(2)

名張市	
高	400(1)
合計	400(1)

川越町	
小(低)	139(2)
小(高)	147(2)
中	132(1)
合計	418(5)

松阪市	
小(低)	898(4)
小(高)	848(4)
中	1,417(4)
高	1,021(1)
合計	4,184(13)

鈴鹿市	
小(低)	512(6)
小(高)	424(5)
中	1,143(3)
高	323(2)
合計	2,402(16)

伊勢市	
小(低)	528(5)
小(高)	464(5)
高	235(1)
合計	1,227(11)

津市	
小(低)	1,259(11)
小(高)	1,274(11)
中	2,001(9)
高	3,694(8)
合計	8,228(39)

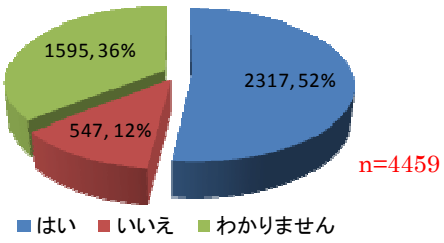
熊野市	
小(低)	42(1)
小(高)	40(1)
中	67(1)
高	108(1)
合計	257(4)

志摩市	
小(低)	61(3)
小(高)	70(3)
中	271(3)
合計	402(9)

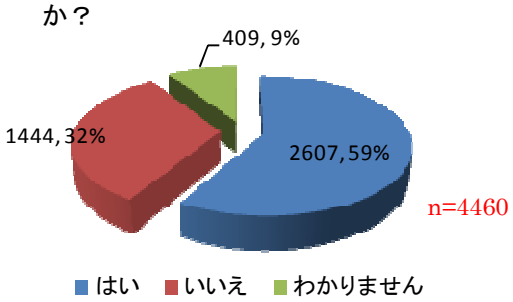
2. 単純集計

＜小学生（低学年）＞

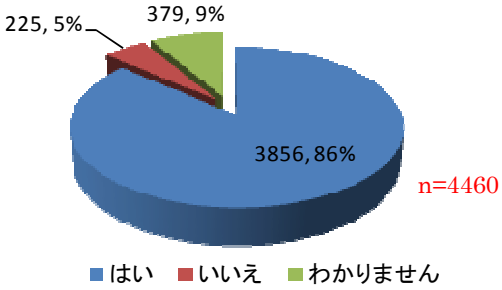
① あなたはじぶんのことが好きですか？



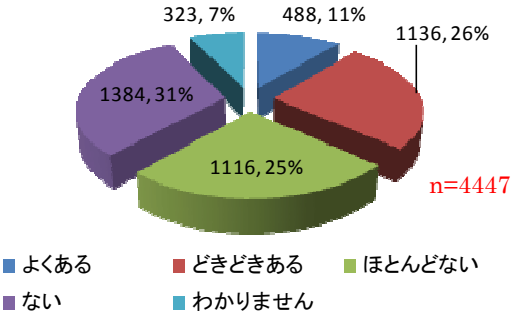
② みんなのまえで話をするときドキドキしますか？



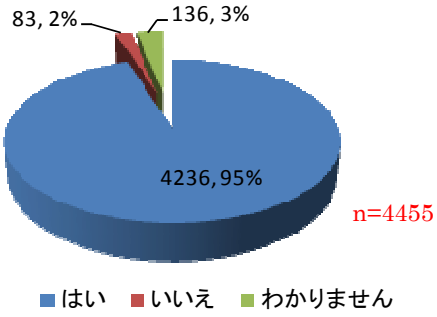
③ 学校や家で あなたの話をきいてくれるひとがいますか？



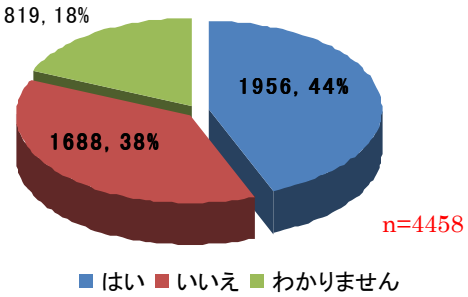
④ ひとりぼっちと思うことがありますか？



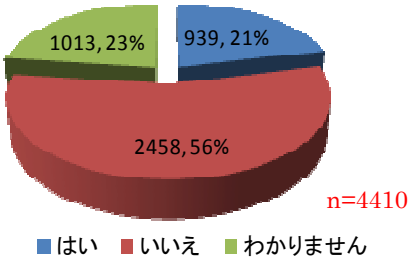
⑤ なかよしのともだちはいますか？



⑥ なにかじまんすることがありますか？



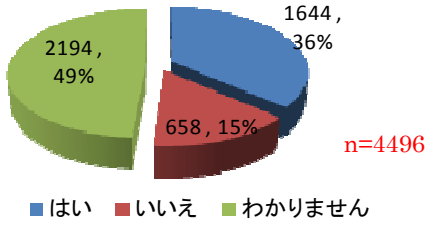
⑦ ともだちやかぞくに いいたいことをがまんしたことがありますか？



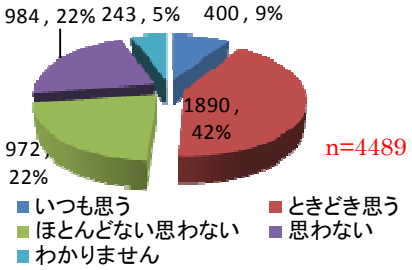
※グラフ数値は、「実数，割合（%）」になっています。記述部分は省略しています。

＜小学生（高学年）＞

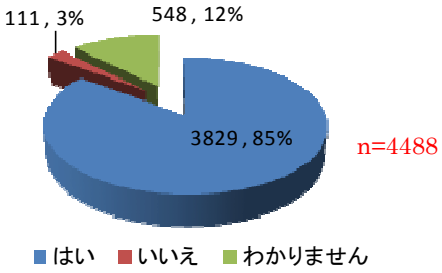
① あなたは自分のことが好きですか？



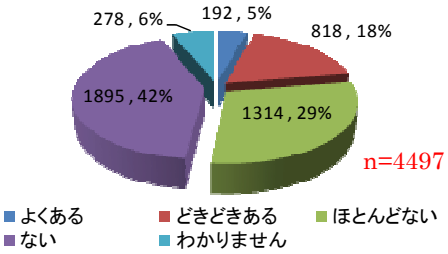
② みんなの前で意見を言うのは、はずかしいと思いますか？



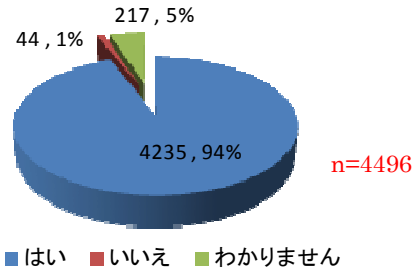
③ あなたの話しを聴いてくれる人がいますか？



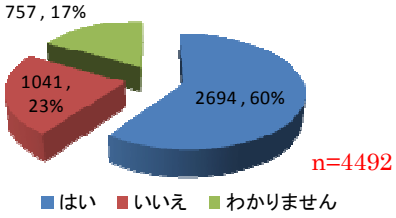
④ 自分はひとりぼっちと思うことがありますか？



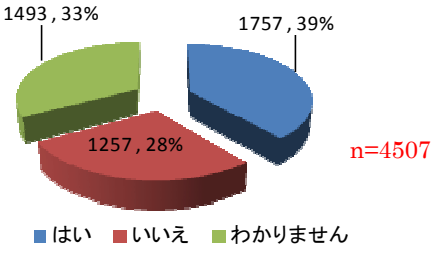
⑤ 仲良しのともだちはいますか？



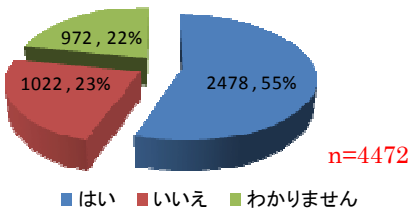
⑥ 自分の言いたいことを言えなかったことがありますか？



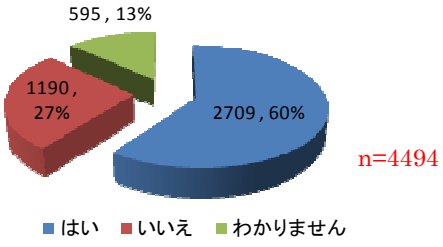
⑦ 勉強でもその他のことでも、何か自慢することがありますか？



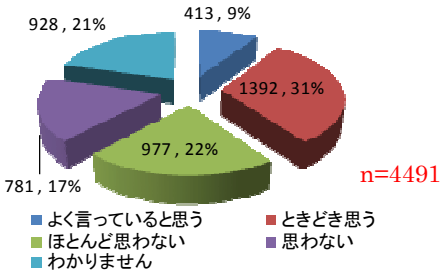
⑧ 自分について変えたいと思うことがたくさんありますか？



⑨ まわりの人に自分がどんなふうに思われているか気になりますか？

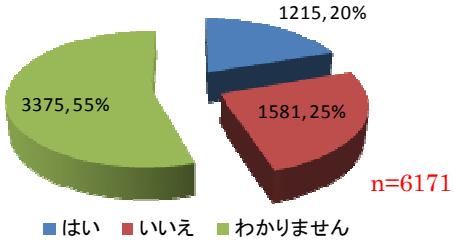


⑩ 他の子があなたのことで嫌なことを言っていると思いますか？

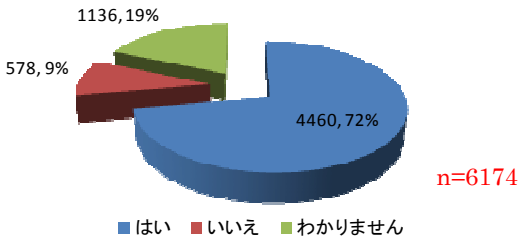


＜中学生 ＞

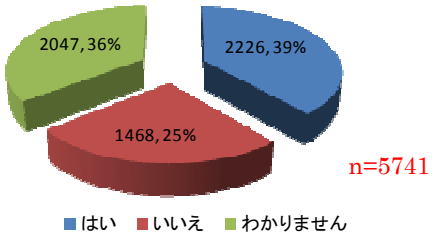
① 自分のことが好きですか？



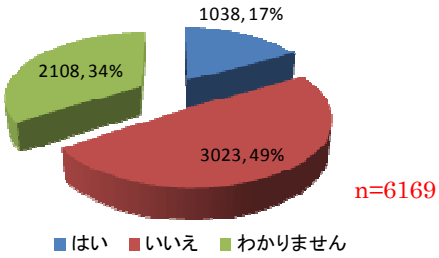
② 自分について変えたいと思うことがたくさんありますか？



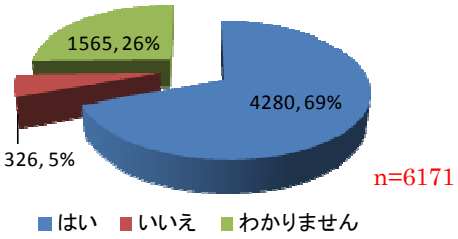
③ 人の前でものを言わなければならないとき、いつも自分はうまくできないと思いますか？



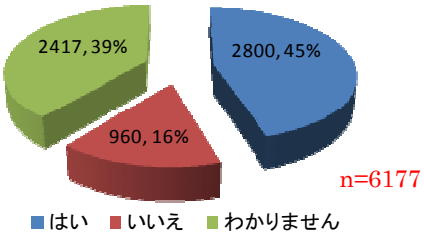
④ 自分に満足していますか？



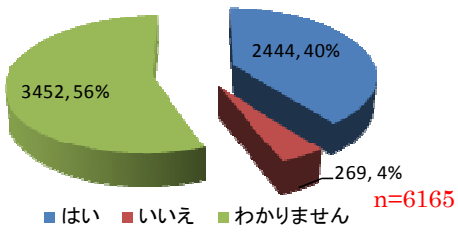
⑤ あなたが認めている人がまわりにいますか？



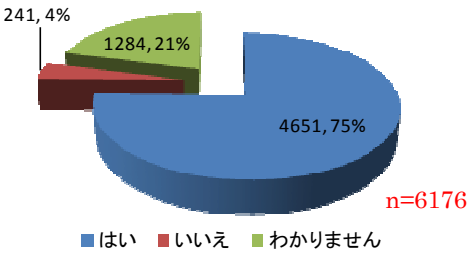
⑥ あなたはまわりからいつもいい人に思われたいですか？



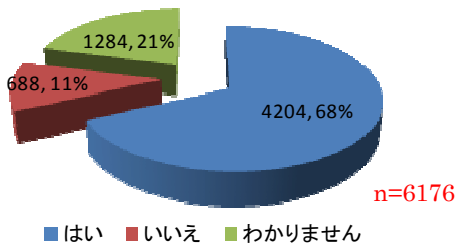
⑦ あなたを認めてくれている人がまわりにいますか？



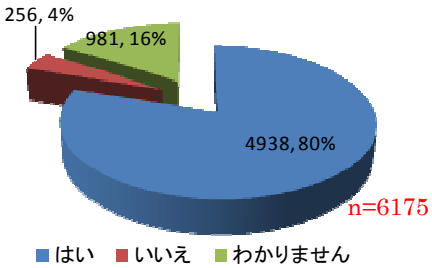
⑧ あなたのまわりにあなたの話をよく聴いてくれる人がいますか？



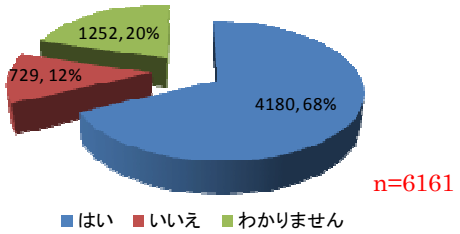
⑨ 自分の気持ちをわかってほしいと思ったことはありますか？



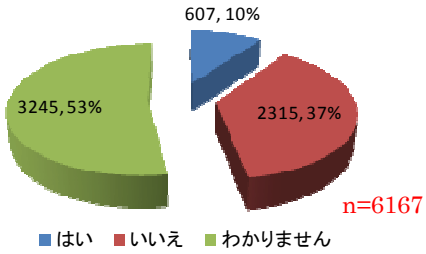
⑩ だれかからほめられると素直にうれしいですか？



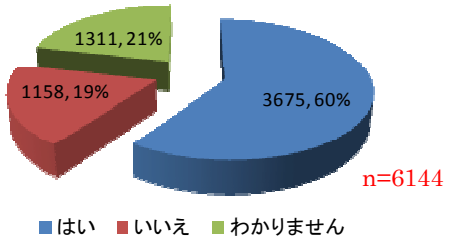
⑪ 自分の短所をなくしたいとよく思いますか？



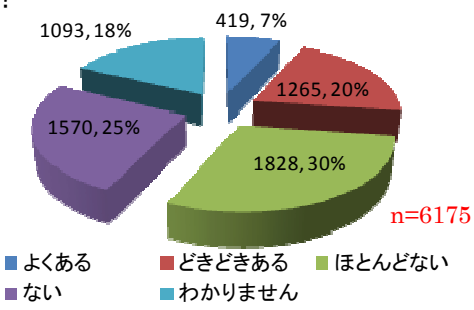
⑫ 自分の声や顔が好きですか？



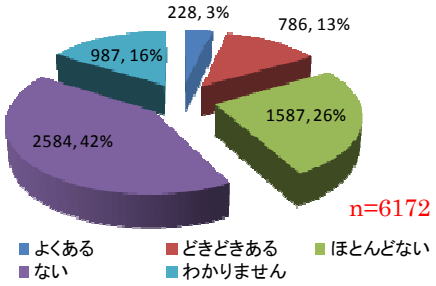
⑬ 自分が他の人にどう思われているか気になりますか？



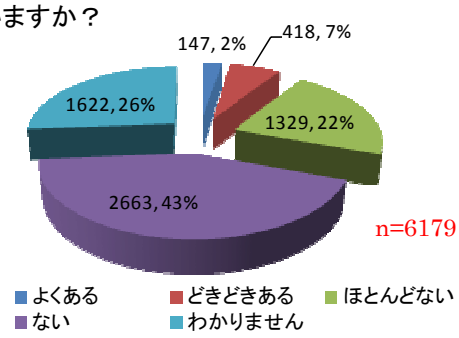
⑭ 自分はひとりぼっちと思うことがよくありますか？



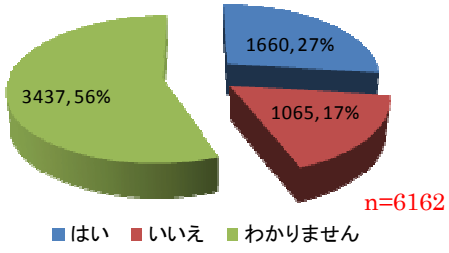
⑮ あなたに話しかけてくれる人がだれもいなくて悲しいと思うことがよくありますか？



⑯ 友だちがあなたより他の子を好きとわかったとき、すぐ新しい友だちをみつけなくてはとよく思いますか？



⑰ あなたはどうしたらまわりの人から期待される役割にこたえられるかを考えて行動する方ですか？

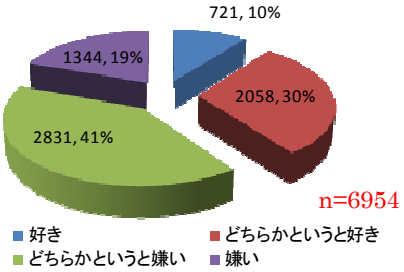


＜高校生＞

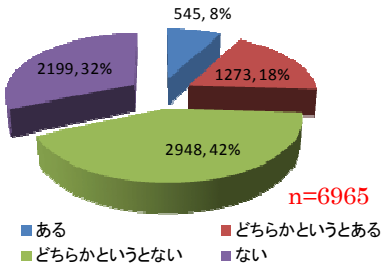
記述部分 [　　] は省略

【 設問 a 】自信について

① あなたは自分のことが好きですか？



② あなたは自分に自信がありましたか？



③ 自信の持てる部分は何ですか？

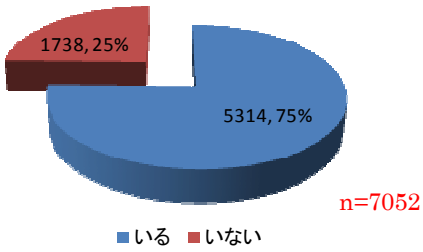
[　　]

④ 自信の持てない部分は何ですか？

[　　]

【 設問 b 】認めあうこと・本音について

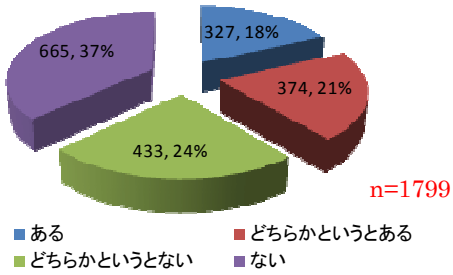
① あなたは自分の悩みや弱音を素直に話せる人はいますか？



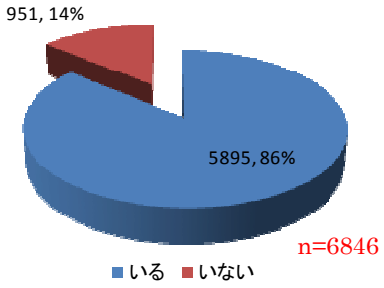
② 「いる」と答えた方に聞きます。その人になぜ、話せるようになりましたか？

[　　]

③ 「いない」と答えた方に聞きます。誰かに話したいと思ったことはありますか？



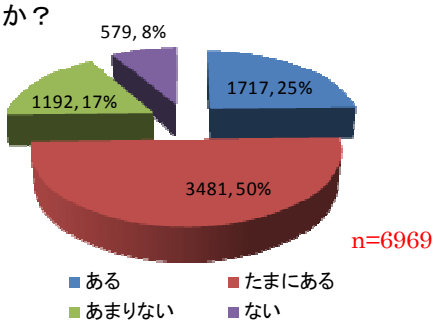
④ あなたは本音を言い合える友達はいますか？



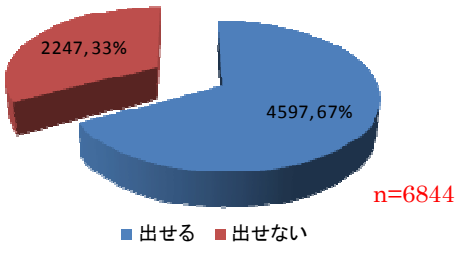
⑤ 「いない」と答えた方に聞きます、本音を言えない理由は何ですか？

[　　]

⑥ 自分と周りの間に壁を作ることはありますか？



⑦ あなたは友達と一緒にいる時、偽りない自分を出す事ができますか？



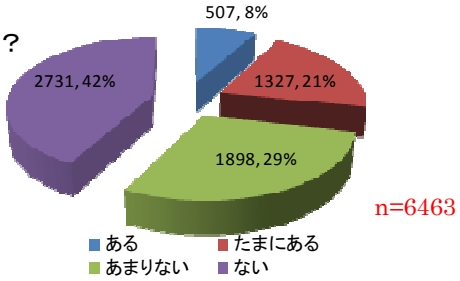
⑧ その理由は何ですか？

【 設問 c 】 認めあうこと･本音について

① あなたの長所と短所はなんですか？ 長所

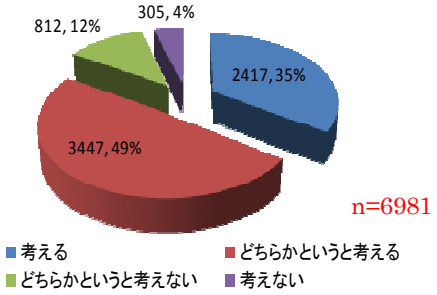
短所

② 自分では短所と思っている所を褒められたことがありますか？



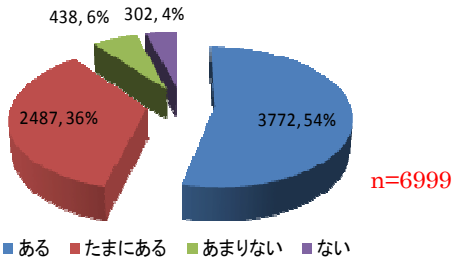
【 設問 d 】 周りと自分について

① あなたは発言や行動をする時に自分だけでなく、周りのことを考えますか？



② その理由は何ですか？

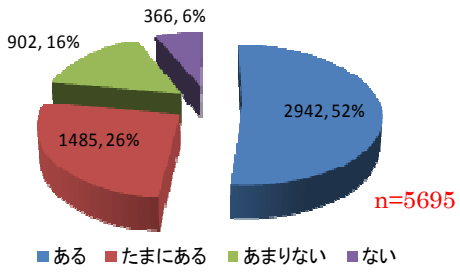
③ あなたは場の空気を読んで、言いたいことを我慢したことがありますか？



④ その理由はなんですか？

⑤ あなたは「空気を読む」ことをどう思いますか？

⑥ あなたは人に何かを言われて凹んだことがありますか？



⑦ 「ある」と答えた方に聞きます。その後どうしましたか？

3.小学生(低学年)・小学生(高学年)・中学生・高校生別結果および分析

本調査における最も重要な設問は，設問a-1の「自分のことが好きか」(自己好意)と，設問a-2の自信に関するものであると思われる。設問a-1の**自己好意に関しては，年齢が上がるほど自分のことを好きと断言できなくなっていく**ことが示された。発達的に児童期(小学生時代)から青年期(中学生時代～24・25歳)にかけて自分に対する評価が低くなるのは不自然ではない(梶田，1980)。理由としては，**児童期よりも青年期の方が自分を深く省みることが多くなり混乱すること，「こうでありたい」という理想の自分(理想自己)を追い求めるようになり現実の自分(現実自己)との食い違いに不満を覚えること，物事を捉える能力が発達し他者からどう評価されているか，今までよりは正確に把握できるようになること**等が考えられている。

問題は年齢が上がるにつれ自己肯定できなくなることではなく，**いずれの年代においても自己肯定感が低い**ことであると思われる。多くの先行研究において，日本人は欧米人に比べ，自己肯定感が持てず不安が高いことが示されている(内閣府，2007 ； 日本青少年研究所，2005)。文部科学省もこのような事情を考慮しながら，学習指導要領の改訂を行った(文部科学省，2008)。今回の調査結果によって，改めて子ども達の自己肯定感の低さが示されたと言える。

また，本調査の独自的な点としては，自己肯定感及び関連する概念を4つに分けたことである。4概念それぞれの関連を詳細に検討することによって，例えば「4．クロス分析から」の②の説明にあるような，子どもの自己肯定感向上のための有効な方策が見つかるかもしれない。

ただし，以下の2点において，本調査結果の解釈は慎重を要する。1点目は， 各年代で質問文の表現が若干異なることである。年代別比較の結果について考察しているが，質問文の表現が異なるため，同一概念を検討していると断言できない。結果の解釈には慎重を期す必要があるだろう。2点目は，自己肯定感の項目に対して，子ども達が正確に答えているかという問題である。我が国の社会では，控えめであることが求められる。そのため，仮に高い自己肯定感を持っていたとしても，自己卑下的な回答をしまうことがあるかもしれない。調査の結果，子ども達の自己肯定感の低さが示されたわけだが，このような回答の歪みが存在する可能性についても留意する必要がある。

引用文献

梶田叡一 (1980)． 自己意識の心理学 東京大学出版会

内閣府 (2007)． 低年齢少年の生活と意識に関する調査
〈 http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/teinenrei2/zenbun/index.html 〉

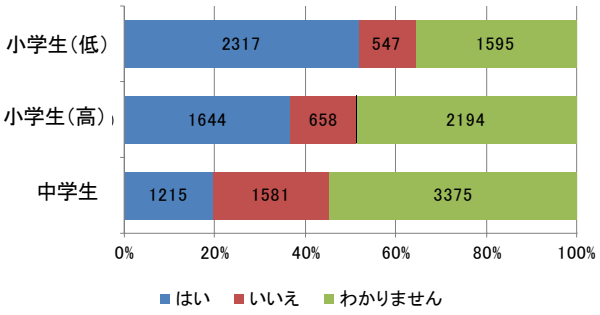
日本青少年研究所 (2005)． 高校生の学習意識と日常生活調査 日本・アメリカ・中国の3ヶ国の比較 〈 http://www1.odn.ne.jp/youth-study/reserch/index.html 〉

文部科学省 (2008)． 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）【概要】
〈 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/attach/1247428.html 〉

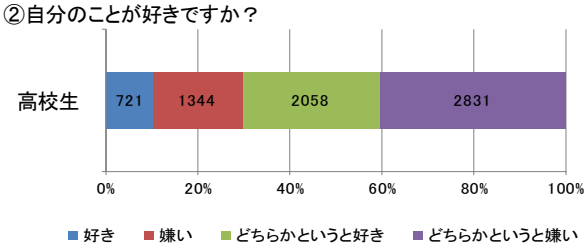
4. 四本柱に沿った分析

【 設問 a-1 】 自信について

①自分のことが好きですか？



②自分のことが好きですか？

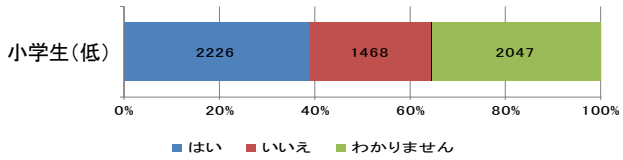


①自己好意

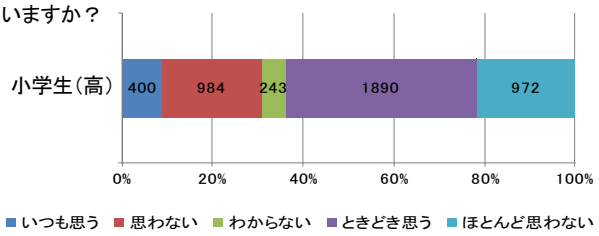
年齢が上がるにつれ，自分のことが好きと断言できなくなっている。発達的に児童期から青年期にかけて自分に対する評価が低くなるのは不自然ではない。しかし，日本の子どもは，諸外国の子どもと比べ，自己好意が低いことで知られている。今回の調査でも，全体的に自己好意が低い傾向が認められる。

【 設問 a-2 】 自信について

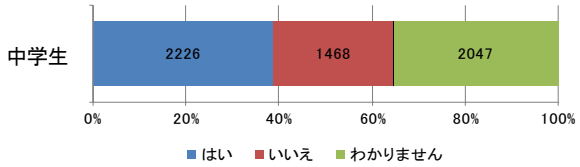
②みんなのまえで話をするときドキドキしますか？



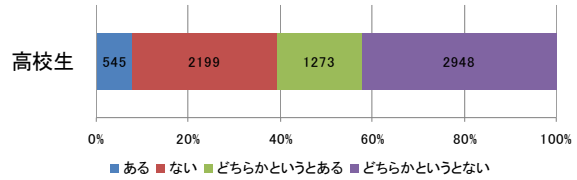
②みんなの前で意見を言うのは、はずかしいと思いますか？



③人の前でものをいわなくてはならないとき、いつも自分はうまくできないと思いますか？



②あなたは自分に自信がありますか？

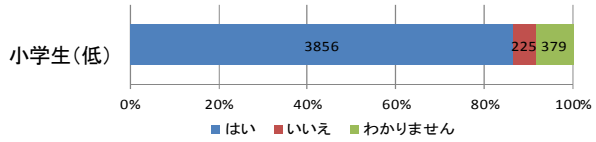


②自信

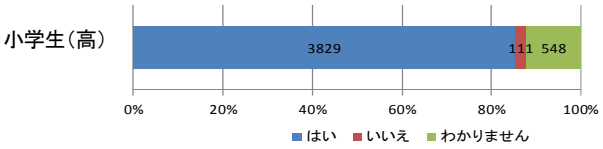
各年代で質問文の表現が若干異なるため，単純な比較はできないが，**いずれの年代でも自信のある子どもより自信のない子どもが多い**という結果が示されている。多くの先行研究において，日本人は欧米人に比べ，自信が持てず不安が高いことが示されている。特に近年は自信の持てない子どもが増加傾向にあると言われており，今回調査における自信のない子どもの割合は，その傾向を改めて証明していると言える。

【 設問 b 】 認め合うこと・本音について

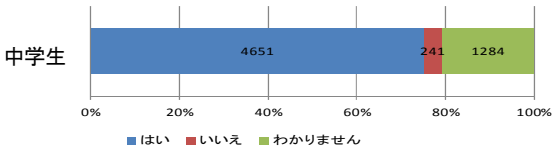
③学校や家であなたの話をきいてくれるひとがいますか？



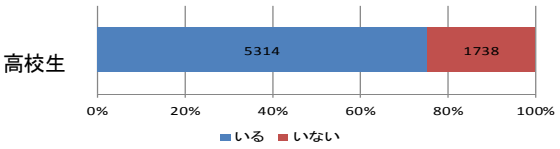
③あなたの話を聴いてくれる人がいますか？



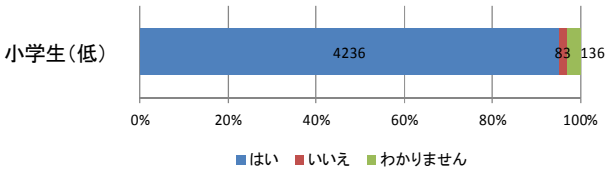
⑧あなたのまわりにあなたの話をよく聞いてくれる人がいますか？



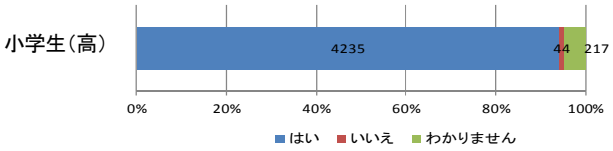
①あなたは自分の悩みや弱音を素直に話せる人はいますか？



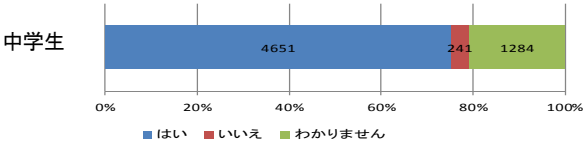
⑤なかよしのともだちはいますか？



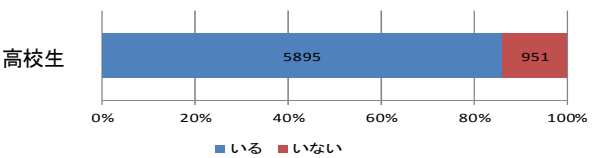
⑤仲良しのともだちはいますか？



⑧あなたのまわりにあなたの話をよく聞いてくれる人がいますか？



④あなたは本音を言い合える友だちはいますか？



③自己開示

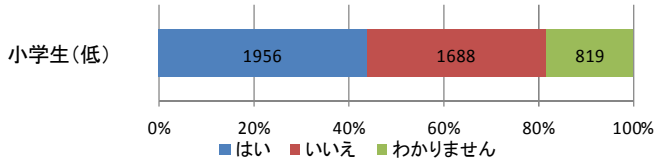
各年代で質問文の表現が若干異なるため，単純な比較はできないが，**小学生では 8 割以上が自分の話を聞いてくれる人がいると回答しているのに対し，中・高校生の回答では 8 割未満**である。自分のことを人に話すこと（自己開示）は，他者との関係性を深めるために重要な行為である。自己開示をした側は相手に対して好意や信頼を送ったことになり，自己開示をされた側は好意や信頼を送られたことになるからである。また，自己開示には，カタルシスと呼ばれる感情を発散する機能もあり，「特に目的もなくただ話す」だけであっても，精神的健康の維持・改善に重要な役割を果たす。

④友人の有無

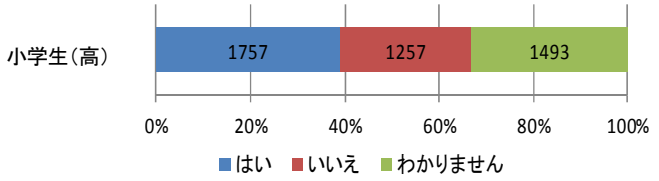
質問文の表現が若干異なるため，単純な比較はできないが，**各年代とも友人ありとの回答が大多数**である。しかし，**高校生に関しては，2 割弱が「本音を言い合える友たちはいない」と回答**している。高校生は発達区分でいうと青年期にあたるが，この時期は，親からの精神的自立を果たし，友人関係をより重視するようになる時期である。同時に，青年期において，友情は，社会性や問題解決能力の獲得等，重要な役割を果たす。また，青年期の良好な友人関係は，その青年の適応とも大いに関係してくることから，深い自己開示ができるような質の高い友人関係の形成が望ましいと思われる。

【 設問 c 】長所と短所について

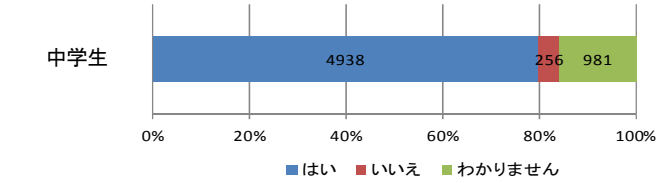
⑥なにかじまんすることがありますか？



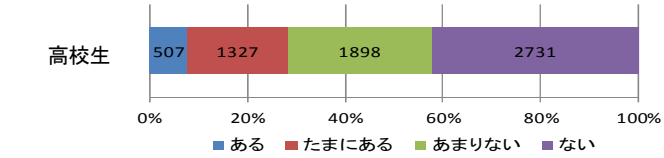
⑦勉強でもその他のことでも、何か自慢することがありますか



⑪自分の短所をなくしたいとよく思いますか？

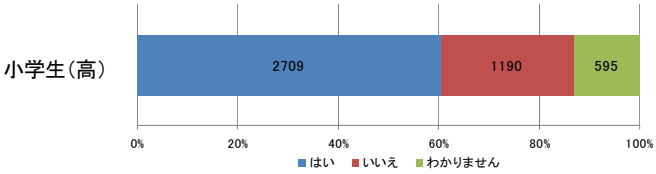


②自分では短所と思っている所を褒められたことがありますか？

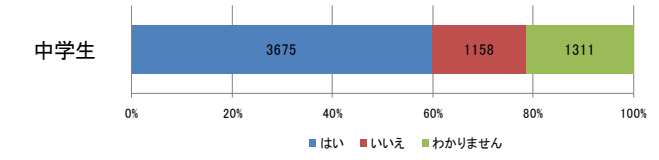


【 設問 d 】周りと自分について

⑨まわりの人(ひと)に 自分(じぶん)がどんなふうに 思(おも)われているか気(き)になりますか？



⑬自分が他の人にどう思われているか気になりますか？



⑤長所・短所

「自慢できることがある」と断言した小学生（低学年・高学年）は 4 割前後であり，残りは「ない」もしくは「わからない」である。**中学生においては「短所をなくしたい」という回答が 8 割前後**であり，短所に関して過敏であることが伺われる。しかし，短所だと思われることであっても，見方を変えれば長所と捉えることができるケースは多々ある。ところが，**高校生における調査では，そのような指摘を受けたケースは 3 割弱**と少ない。**子どもの自己評価を高めるために，子どもが短所だと思っていることを捉え直すことができるよう，大人側がかかわりを工夫していく必要があるかもしれない。**

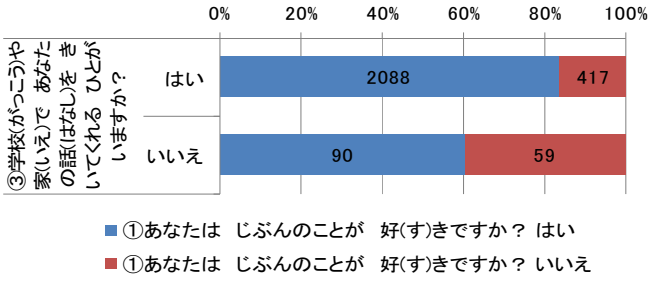
⑥自己意識

各年代で質問文の表現が若干異なるため，単純な比較はできないが，周りからどう思われているかを気にする程度（自己意識）は，**小学生（高学年）・中学生ともに 6 割前後と大差はない。**自己意識は低過ぎると他者の目を気にせず自己抑制が効かなくなるため良くないと言われているが，反対にあまりにも高い場合も良くないと考えられている。**他者からの評価を気にし過ぎた結果，自分の本意ではない行動を取ってしまったり，スムーズなコミュニケーションが取れなくなったりすることがある。このことから，どの程度自己意識をしているかが重要**であると言える。

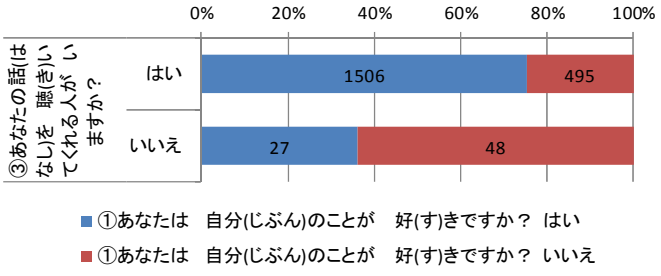
4. クロス分析から

a（自信）×b（認め合うこと）

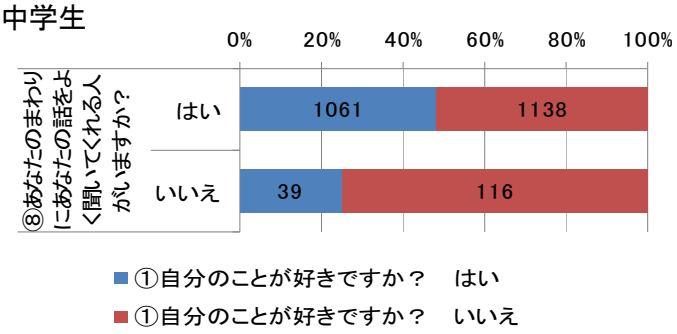
小学生（低学年）



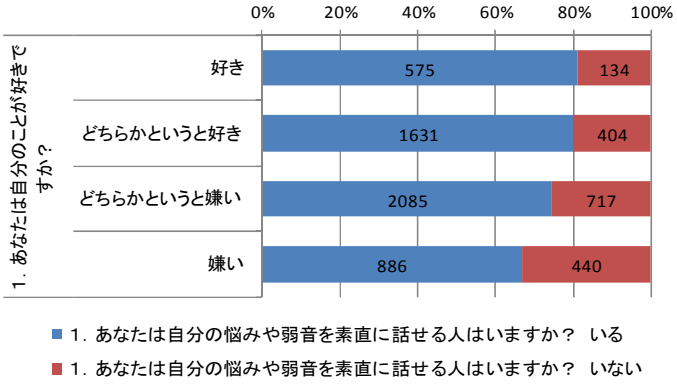
小学生（高学年）



中学生



高校生



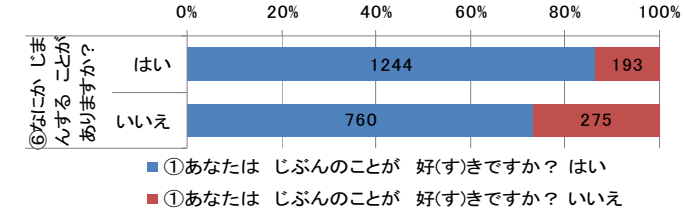
① 自己好意と自己開示との関連

自分のことを人に話す（自己開示）ができている子どもは，自己開示ができていない子どもに比べ，自分のことが好きと回答する割合が高かった。各年代で質問文の表現が若干異なるため，断言はできないが，全年代において同様の現象がみられている。

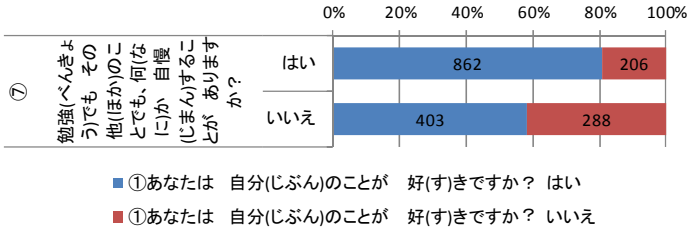
自己開示は前述のように良い効果がある一方，自分の弱みを見せるというリスクを抱えている。自分のことが好きでなかったり，自信の持てない子どもは，自分の弱みを見せることを恐れ，自己開示を控える傾向にあるのかもしれない。また，「自己開示をすると自分のことを好きになる」という逆の因果関係も想定される。自分のことを話すと，多くの場合，相手からその内容に対するコメントをもらうことができる。例えば，自分の短所について話した後，相手から「あなたが思っているほどその短所は目立たない」「それは短所ではなく長所だ」といった返答があるかもしれない。その返答によって，自分を好きになるといった流れも考えられるだろう。

a(自信)×c(長所・短所)

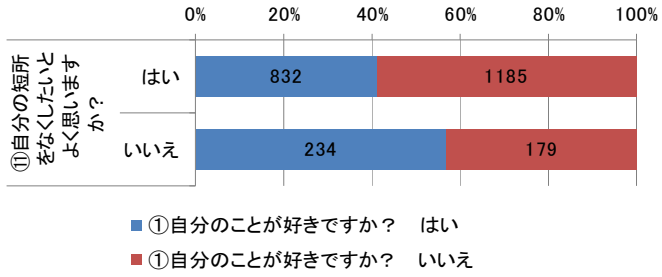
小学生(低学年)



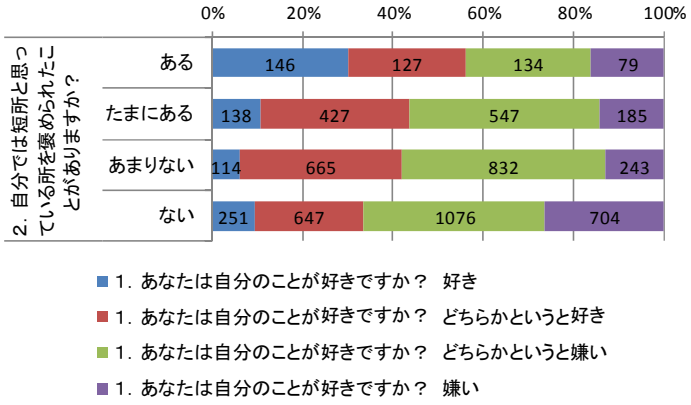
小学生(高学年)



中学生



高校生



②自己好意と長所・短所との関連

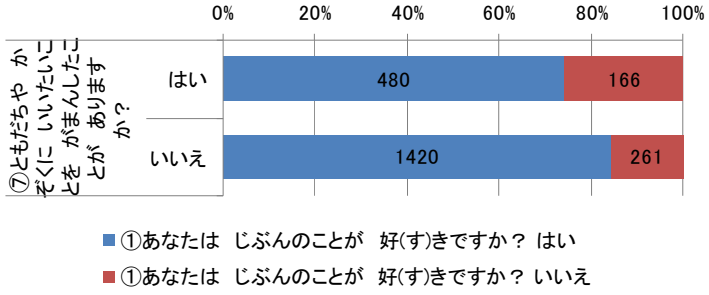
質問文の表現が若干異なるため，断言はできないが，**小学生(低学年)・小学生(高学年)ともに，何か自慢することを持っている子どもは，自慢することを持っていない子どもに比べ，自分のことが好きである割合が高い**ことが示された。**自分のことが好きであることと自分自身について良好な認識を持っていることは密接に関連**しているようである。

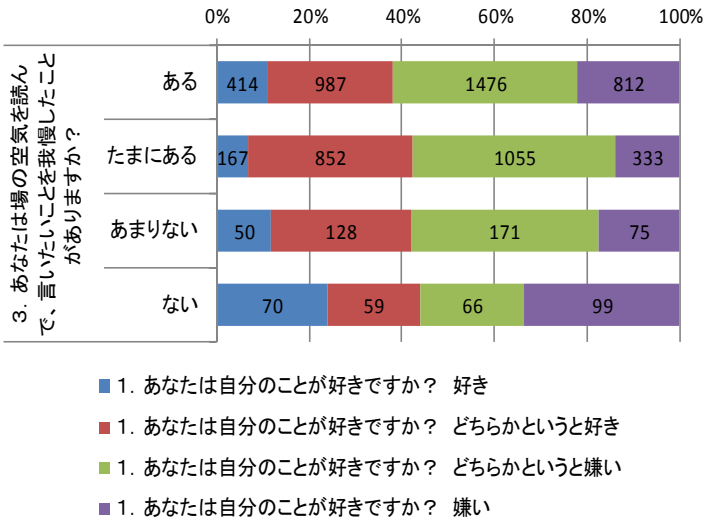
中学生に関しては，短所をなくしたいと思っていない場合，自分のことを好きである割合が高かった。この質問に「いいえ」と答えた理由として，短所がないと思っている，短所を直す気がない，短所は捉え方次第で長所にもなりうるので直す必要がない等，多様なケースが考えられるため，様々な解釈が可能であろう。

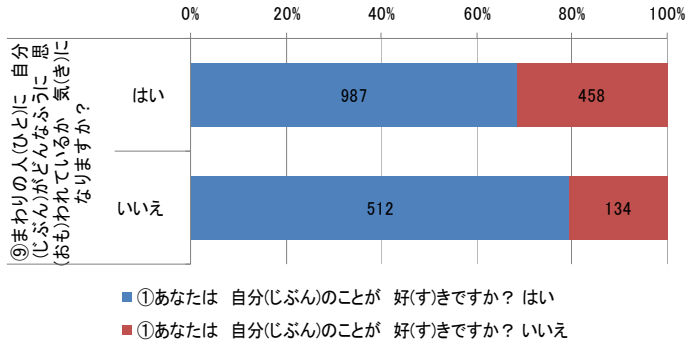
高校生については，短所を褒められた経験が多いほど，自分のことを「好き」もしくは「どちらかというと好き」と回答する割合が高かった。

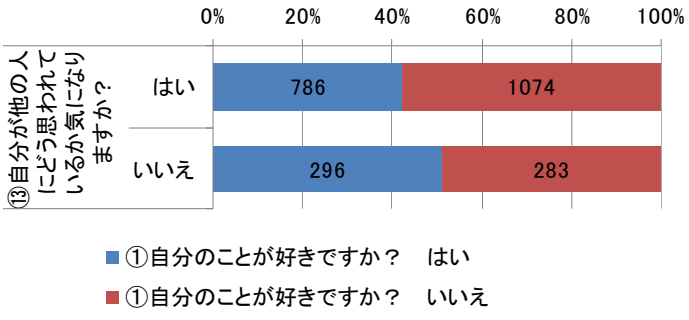
子どもに自分のことを好きになってもらうためには，子どもが**短所を捉え直すことができるようなかかわりを促進していく**必要があるかもしれない。

a(自信)×d(周りと自分)









③自己好意と自己開示の抑制との関係

質問文の表現が若干異なるため，断言はできないが，**小学生(低学年)・高校生において，言いたいことを我慢したことがない子どもは，言いたいことを我慢した子どもに比べ，自分のことを好きと答える割合が高かった**(小学生(高学年)・中学生のアンケートでは「自己開示の抑制」に該当する項目はない)。ここ十数年，深入りしないあっさりした人間関係を望む子どもの存在が指摘されているが，**空気を読んだ表面的なかかわりによって，他者ばかり尊重していると，自分を好きになれないことにつながっていく可能性を示唆**している。

④自己好意と自己意識との関連

質問文の表現が若干異なるため，断言はできないが，**小学生(高学年)・中学生において，他者からどう思われているか気にしない子どもは，他者からどう思われているか気にする子どもに比べ，自分のことを好きであることが多かった**(小学生(低学年)・高校生のアンケートでは「自己意識」に該当する項目はない)。他者からどう見られているかを過剰に意識した場合，精神的に動揺しやすくなることが知られている。**精神的に安定して，確固とした自己を持つことにより，他者の目を気にしなくて済むようになる**かもしれない

(梶　美保・小池はるか)

Ⅳ　自己肯定アンケート実行委員会の取り組みと「うちらの想い」

１．座談会

自己肯定アンケートの作成や分析に関わってきた実行委員会に参加した高校生は8人。
共に活動していく中で気がついたこと、そして変わってきた自分を振り返り、
共有しあった事を伝えるための座談会を行った。

私達の想いやメッセージを、じっくり感じて欲しい。

・人と関わる環境の大切さ

「人と人との関わりが減っていると感じない？」
「確かに1人ぼっちと感じる人も増えているな。」
こんな会話から始まった座談会では“今の自分達は1日にどれだけの人と関わっているんだろう？”という話に！
ゲームやTV 、パソコンなどが広まっている今の世の中は人と触れ合う機会も減っているのではないか。

「昔は友達と遊んでるだけでも沢山の人と触れ合いがあったよ。」
かつては、地域との関わりが強かった。近所のおじさんやおばさんが見守ってくれているため、こういった付き合いを通して子ども達が自然に学べる環境が沢山あった。今は地域の交流が少なくなり、お隣の顔も分からない！といったケースも珍しくはなくなっているのが現状。
そんな地域の繋がりをまた作りたい。
「人との関わりって自分づくりに大きく関わってくるよね」
人と話をしたり触れ合う事で気付ける事はたくさんある。しかし、それは自分が周りとどう関わり感じようと行動するのかが大切になってくる。
環境は自分の意識次第で変える事ができる！
だから諦めず沢山の人と関わって生活してほしい。

・依存は寂しい。

「親友は居るけど家に帰ったりすると寂しいよな」
最近、ブログや HP でこのような書き込みをよくみる。
なぜ書くのかな？と疑問に感じていた時に
「それは友人に対して“依存”しているからではないか？」
と意見を聞かせてもらった。8割の学生が信用できる友達が
身近に居ると答えていたのにも関わらず寂しさを感じる人が
増えているのは、自分自身というのを持ち切れておらず
仲間の存在が自分の全てになりつつあるのかもしれない。
だから学校や遊んでいる時は安心できているが、
離れてしまうと寂しくて耐えられないのではないだろうか。
そういった関係は深い様に見えて“希薄”なのではないかとも考えられる。
理想的なのは自立しあい、お互いを認め合える関係なのではないだろうか？

・自分を認めよう！！

「自信の無い昔の自分は嫌いだったけど、今は認めている」
誰にだって自分の嫌いな面を持っている。
きれいな面で失敗する事もある。
どう捉えるかによってはプラスに大きく進めることができる。
そのような経験を嫌いな面がある事や失敗することはしてはいけないことではなく自分が学ぶ経験ができるチャンスであるからだ。
そんなチャンスから自分を認めてあげることで、人との関わりの幅が増えてポジティブに成長していけるのではないだろうか。

【一木】自分自身に自信がなく、変わるために様々なことを経験し、そんな中で自己肯定アンケート実行委員に関わった。自分が嫌いだったときがあったから、今はとても良かったと思う。リアルな体験を活かして伝え、また新しく経験したことや学んだことを吸収できるような人になりたい。

【大畑】このような会議に自分が発言して参加するのは初めてだった。自分自身がしっかり発言できたり、新しいことを感じることができた。今は、松阪や津だけでなく、いろんな所や地域に行って意見交換をしたいと感じるようになった。人見知りがあるので人と交わって無くしたい。実行委員会でやってきたことを広げたい。親に甘えているので、一人で歩んでいきたい。たくさんの人に会いたい。参加してよかった。

【岡村】この活動を始める前、自分自身に嫌なところがあった。いつの間にかはっきりと自分のことを好きやといえるようになってきた。苦手な人も減り、いろんな人に伝えたと思うようになった。いろんな人と話せるようになって、やってて良かった。

【喜多】みんなに嫌われないように…。私は行動するときに常にそんなことを思っていました。でも、この自己肯定アンケート実行委員会に参加し、アンケートを作る中で自分のこと、考えをたくさんだすなかで、いつの間にかそれはなくなっていきました。今は自分のことが好き！！と言えるようになりました。自分のことが好きになれたこの実行委員会が私は大好きです。参加して、よかったです。

【草深】普段は自分の道を歩んでいますが、人と関われる場に参加することで忘れたくない想いを再確認できるのでとても楽しかった。人の為だと生きてきたが、これからは「自分の為」に生きていこうと思う。しかし、自分の為にしていることが人の為になっているような生き方を目指し頑張っていきます。それが僕の幸せだから。

【谷口】小学生のころ、クラスで一番いじめられっ子で、ほとんどの人とコミュニケーションがとれなかった。そんな自分を変えようと思って参加した。最初はなかなか自分から話すことができなかったが、少しずつ自分から話せるようになり、私生活でも変わることが出来たので参加してよかったと思った。

【松本】ここには先生に誘われて参加した。中学生の時にたくさんの人と交わりたいと思った。アンケートを自分で見て、アンケートをとることで普通の話し合いで取れない声が聞けた。この会議をやっていて高校を出て人と関わる仕事（教師、保育士）、最近は社会福祉士になりたいと思った。やっていて真面目に自分の先のことを考えられるようになったのでよかった。

【勇元】この活動に参加して、たくさんの意見を聞くことができて、新しい自分を見つけれました。3月を最後に参加できなくなってしまったけど、その間に自己嫌悪になることも、なくなってきました。過去の自分も今の自分も今は好きです。参加して、本当によかったです。

自己肯定アンケート実行委員会

高校生メンバー

三重県立北星高等学校　４年　一木　　譲
三重県立白山高等学校　３年　大畑　光基
三重県立松阪高等学校　２年　岡村　映見
三重県立上野高等学校　３年　喜多　　愛
三重県立津工業高等学校　３年　草深　義宗
三重県立朝明高等学校　３年　谷口　暁洋
三重県立津東高等学校　１年　松本　大和
三重県立名張高等学校　３年　勇元　瑞希

ファシリテーター

三重大学教育学部　４年　岸本　真梨子
三重大学教育学部　４年　雪　岡　　彩

※学校名・学年は子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル開催時のものです。

2. 小学生（低学年）・小学生（高学年）・中学生・高校生の分析

● 小学校低学年 ●

「自分が好き」と答えた人は、「〇〇ができる」や「〇〇を持っている」というように「誰かに自慢できる」ことがあるから「好き」と答えているのではないかと思われます。逆に、「あの子は〇〇ができるのに、自分はできない」とか「あの子は〇〇を持っているのに、自分は持っていない」という思いがある人は自分を好きになれてないように考えられます。

「話をきいてくれる人」や「なかよしのともだち」は「いる」と答えてくれた人はたくさんいるにも関わらず、「ひとりぼっち」と思うことが「ある」人の数が多かったのが気になりました。

「じまんすること」については、「できたこと」について書いている人が多いように思います。中には自分の親のことを書いてくれた人もいて、興味深かったです。

言いたいことは言える人は、約半数いるけど、「なかよしのともだち」が「いる」人の割合からすると少ないです。友だちに嫌われたくないから、言いたいことを我慢しているのではないかと思います。

● 小学校高学年 ●

自分のことが好きですかという設問に「わかりません」と答えた割合が一番高いのは、小学校高学年でした。「自分って何だろう？」ということに関心を持ち始める年代だからではないかと思います。また、人前で意見を言うことを「恥ずかしい」と思う人が半数もいるのは、「失敗したらどうしよう」とか「トチったらどうしよう」ということが気になるからなのかもしれません。「周りの人にどう思われているのか」が気になるのではないかと思われます。また、「話をきいてくれる人」と「仲良しのともだち」が「いる」と答えてくれた人の数は、どちらもかなり多いのですが、「ひとりぼっち」と答えている人が2割もいるのは、多いように思います。それは、自分は友だちだと思っているが、相手はそう思っていないのかも、というような不安があるのではと考えられます。

「言いたいことを言えない人」と、「周りにどう思われているのか気になる人」が多いことからも、自分がどう思われているかを気にして、言いたいことを我慢している人が多いと思われます。

● 中学生 ●

自分のことが好きかどうか「わからない」割合が高い一方で、今の自分を「変えたい」という願いを持っている人や、今の自分には「満足していない」人も多いです。ありのままの自分でいいと思える自己肯定の土台がないように考えられます。また、本当の自分というものを、今から築き始めようとしている状態なのではないかとも思われます。

自分は相手のことを認めているけど、相手が自分のことを認めているかどうかは「わからない」。周りからは「いつもいい人に思われたい」という人が多かったことから、周りの評価を常に気にしていることがわかります。

「話をよく聞いてくれる人」がいると答えた人が8割弱もいるのに、「自分の気持ちをわかってほしい」と思う人も7割程もいます。本当は、「話をしても、気持ちをくんでもらえない」と感じている人が多いのではないでしょうか？　一緒にいて、たわいない話をしているだけで、仲間であり認め合えていると思っている人が多いと考えられます。本当の仲間、認め合う仲間は、自分の悩みや弱みをいざという時に話せてさらに想い合えるのが仲間ではないのかと思います。

● 高校生 ●

「自分が好き」率は低く、好きではない、自信もない、と答える人が多いです。

「自分の悩みや弱音を素直に話せる人」がいる人は多く、「本音を言い合える友だち」がいると答えた人も多いです。小中学校の生活の中で友だちができ、相談できる友だちが記述では幼なじみと答えている人が多かったです。本音を言い合える友だちをつくるのがむずかしいのではと考えられます。

壁を作ることがある人は、8割弱もいます。このデータから、「親友とはずーっと仲がいいが、親友とは違う人（他の友だち、親、先生）に対しては、受け付けない！少数精鋭友だち！！」と考えている人が多いのではないかと思います。少ない友だちでも、その親友に悩みや弱みを出すことで、他の人に壁を作っても、我慢しても、大丈夫！？な生活をしている、と考えられます。

また、「短所と思っている所を褒められたこと」がない人が多かったです。短所も長所もあるのがありのままの自分だと思うので、たくさんの人と接すればいろんな角度から自分を見てもらえると思います。

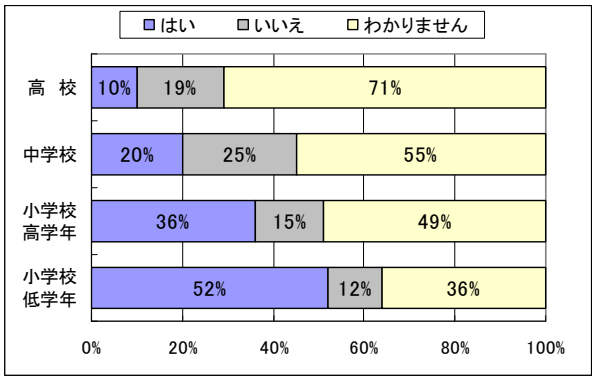
周りのことを考えるのは、当たり前だと考える人が多いです。人にあわせて自分を抑えていることが「良いことだ」と考える人も多いです。周りのことを考えて、我慢することは絶対あるけれど、当たり前で終わらずに自分のことを話すにはどうすればいいか？を考え、行動してほしいと思います。

3. 高校生の四本柱に沿った分析

(a) 自信について →「自分のことを好きになろう！できない自分も自分自身」

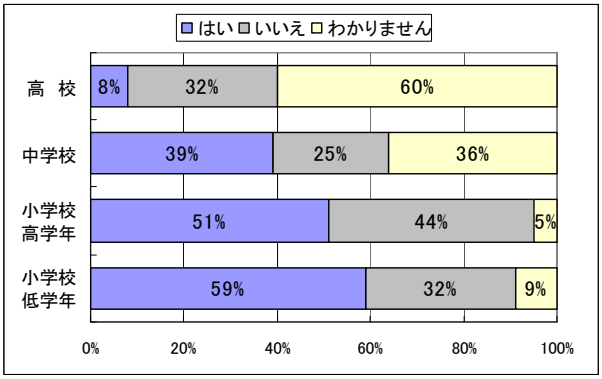
今回のアンケートで、どの年齢対象のアンケートでも一番始めの質問は「自分のことが好きですか？」という質問でした。今の子どもを見てみると自分のことを好きと言える人は少ないのかなと予想していました。実際の結果は(図1)の通りです。

図1 「自分のことが好きですか？」



(小学校低学年①・小学生高学年②・中学生①・高校生 a①)

図2 「自分に自信がありますか？」



(小学校低学年②・小学生高学年②・中学生③・高校生②)

小学校低学年から年齢があがるにつれて綺麗に自分のことが好きと答える人は減っています。小学校のときは自分のことが好きだった子どもも、高校生になると 5 分の1に減ってしまうのです。なぜ自分のことを好きではなくなってしまうのでしょうか？

それは成長するにつれて「比較」が多くなるからなのかな、と思いました。学年が上がるにつれ、いろんなことを知り、経験する中で、成績の順位、容姿のこと、何が出来るのか、空気がよめるか…。そういったことを周りの人と自分とで比較してしまい、自分が劣っていると感じ自分が好きになれないという人が、どんどん多くなってしまうのではないでしょうか？

また、高校生の、「あなたは自分に自信がありますか？」という質問に対して「はい」と答えた高校生はわずか8%でした(図2)。

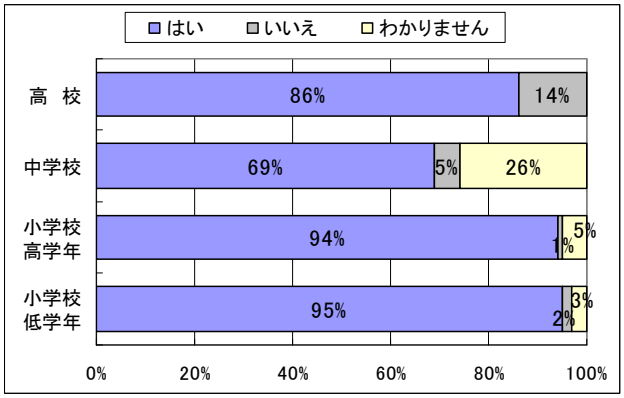
自信の持てる部分、もてない部分を聞いたところ、高校生は自信の持てる部分「なし」、もてない部分「全部 」という回答がすごく目立ちました。あの子と比べて自分は何も出来ないから、自分に自信なんてない。だから自分のことは嫌い。そう考え、自分をすべて否定してしまう人が多いのです。「自信」というのは、何かが出来たことによって生まれるものなのでしょうか？他人と比べて勝っていることで持てるものなのでしょうか？そうではないと思います。本当の意味の自信とは、¨自分のことをすべて認めて、自分自信のことを信じること¨なのではないかと思います。

完璧な人間なんて存在しません。何かが出来ないから自分はだめだ。ではなく、何かが出来る自分も出来ない自分も、すべて自分なのです。いい自分も悪い自分もすべて自分なんだと受け止め、認めて、そんな自分を好きになっていってほしいです。

(b)認め合うこと・本音について　→「心を受け止めてくれる人をまわりにつくろう！」

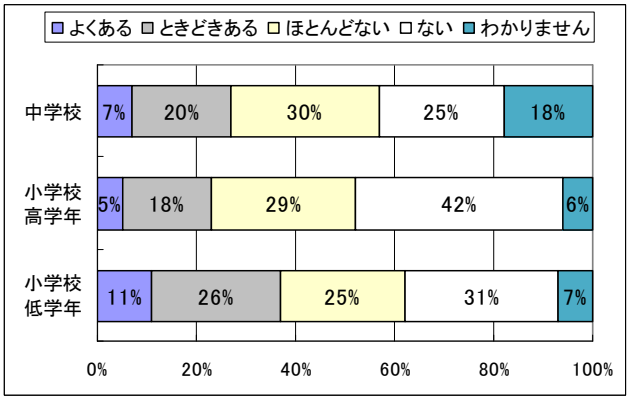
「なかよしのともだちはいますか？」の設問で、全ての年令層でほとんどの人が仲良しの友だちがいるという結果が出ているにもかかわらず(図3)、(図4)では、ひとりぼっちと感じている子どもたちが23%～37%いることから、かなりの割合で孤独を感じていることが窺われます。そのことは、普段の生活で仲がよくても、本音の部分で気持ちを明かせないでいることが推測されます。

図3 「なかよしのともだちはいますか？」



(小学校低学年⑤・小学生高学年⑤・中学生⑤・高校生 b④)

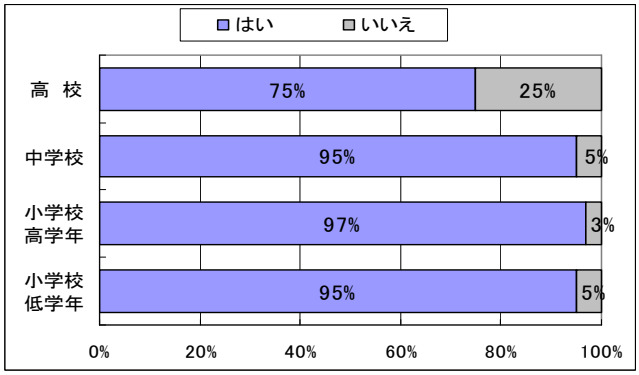
図4 「ひとりぼっちと思うことがありますか？」



(小学校低学年④・小学生高学年④・中学生⑭)

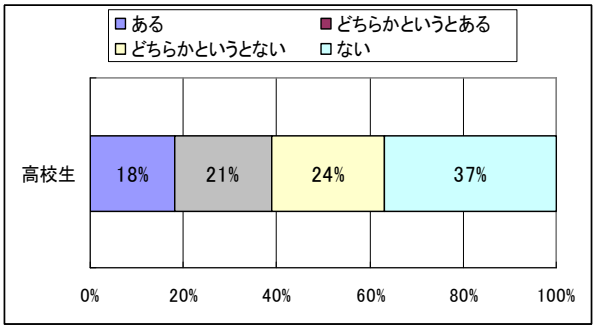
「あなたの話をきいてくれる人がいますか？」という設問では、まわりに悩みや本音などを話せる人は、意外に多いことがわかります(図5)。高校生の「いない」と回答した人が25%、その中で話したいのに話せる人がいないと答えた人が37%いるということと(図6)、自由記述の「いる」と答えた理由、(例えば…仲がいいから、長いつきあいだからなど)から考えて、かなりの割合で気持ちや心の中の問題を話し合いたいが話せる人がいないことやそういった関係性を築けないでいる姿が浮かび上がります。

図5 「あなたの話をきいてくれる人がいますか？」



(小学校低学年③・小学生高学年③・中学生⑧・高校生 b①)

図6 「誰かに話したいと思ったことはありますか？」



(高校生b③)

これらのことから、話を聞いてもらえたり一緒にいるということが、受容されていることに必ずしもつながっていないということがわかります。表面的なつきあいによって孤独を感じてはいないだけで、ありのままの自分をまわりに出せていないのではないでしょうか。ありのままの自分をまわりから受け止められることで、自分が自分でいいいのだと実感します。そして、逆に自分のまわりの人も認めていく。そういったお互いの関係性が大切なのではないでしょうか。

(c)長所と短所について →「できることが長所なの？」

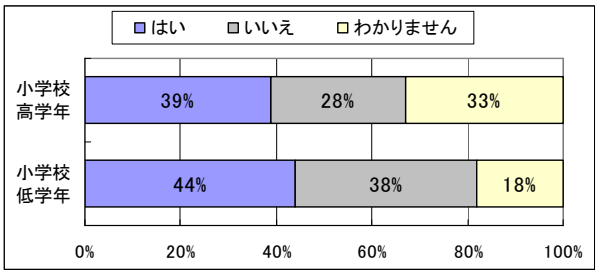
小学生への「何か自慢できることがありますか？」という設問に対して、「はい」という解答が低学年より高学年が減っています（図7）。記述を見ると下記のような内容で、小学生の「自慢すること」は多様性があり、家族のことや具体的に上手くできることがあげられています。低学年の自慢することが「ない」という回答が多いのもその判断によるものだと思われます。学年が上がるにつれて周りとの比較が多くなり、特に勉強が重要になってきていることが伺われます。

〈自由記述（自慢できること）〉

低学年：ピアノ、一輪車、ゲーム、足が速い、おとうさんが釣り名人、いぬが可愛い etc

高学年：勉強、運動、音楽、算数、水泳、野球、料理ができる etc

図7 「自慢することはありますか？」



（小学校低学年⑥・小学生高学年⑦）

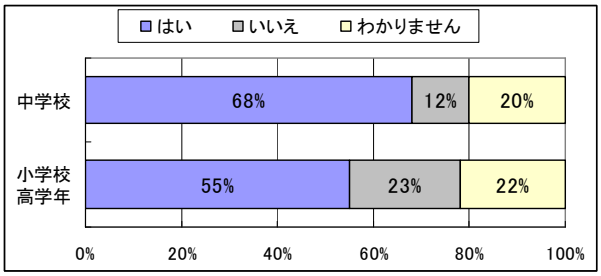
高校生になると「長所は？」の問いに「無い」という回答と、「短所は？」の問いに「すべて」「全部」の回答も多くなります。判断の基準が人間関係におかれ、人に合わせることが良いことで、合わせられないことがダメだと思っていることが伺われます。

〈自由記述（長所・短所）〉

長所：明るい、優しい、空気が読める、人当たりがいい etc

短所：短気、人見知り、落ち込みやすい、気遣いができない、自分勝手 etc

図8 「自分を変えたいと思うことがありますか？」



（小学校高学年⑧・中学校⑪）

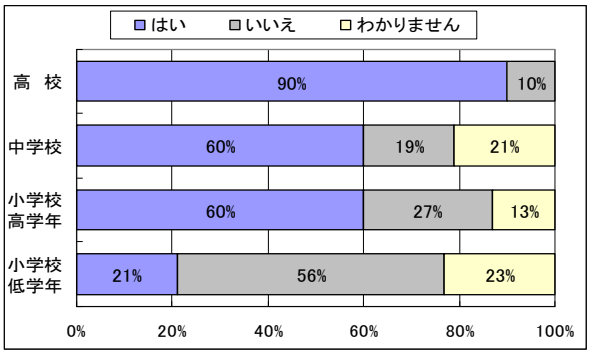
また、小学校高学年への「自分について変えたいと思うことがたくさんありますか？」という設問に対して「はい」が55%、中学生への「自分の短所をなくしたいとよく思いますか？」の設問に対して「はい」が68%でした。学年が上がるほど多くなっています。現状の自分を肯定できない子どもたちが6～7割いることが読み取れます（図 8）。このことは子どもたち自身が「できることに価値があり、できない自分は認められない」と思っていると思われます。高校生の「長所」「短所」の記述からも同じことを感じました。「できない自分」も「短所がある自分」もすべて大切な自分の一部として受け止めてほしいと思います。「短所」をダメなところだと思う必要がないのです。自分の短所と思っていることが、他の人が長所と言っていることもあります。例えばある人は「心配性・やることが遅い」ことを短所と思っていますが、そのことは他の人が長所としてあげている「慎重」であることでもあります。「自己中」の自分はダメだと思っている人もいれば、自分の長所は「マイペース」だと思っている人もいます。短所が「短気」という回答も多くありました。空気を読むことが優先されて自分の感情を否定しているような気がします。意外に自分の嫌だと思うところが実は自分らしさであるかもしれません。考え方の転換をすることで、ありのままの自分を丸ごと受け止めてほしいと思います。

(d)周りと自分について →「自分の想いを伝えよう」

空気を読むことをどう思いますか
・当たり前
・雰囲気を守る事
・当然
・いい事だと思う
・読まないとKY
・マナーの一つ
・大切な事
・常識
＊時々いやと感じる

大人も子どもも沢山の人と関わりながら今を生きているが、近年“場の空気”というものに敏感になりすぎてはいないだろうか？右票は高校生の設問（d5）の回答から多く見られたフレーズですが、子ども達にとっても“空気を読む”ことは当たり前で、マナーと感じている人が多いことが分かりました。さらに空気を壊すことでKYといわれる可能性があるので、日常的に周りの様子を伺い自分の言いたいことが怖くて話せない！という事例も高校生の設問(d4)の回答中で多く出ていました。

図9「言いたいことを我慢した事がありますか？」



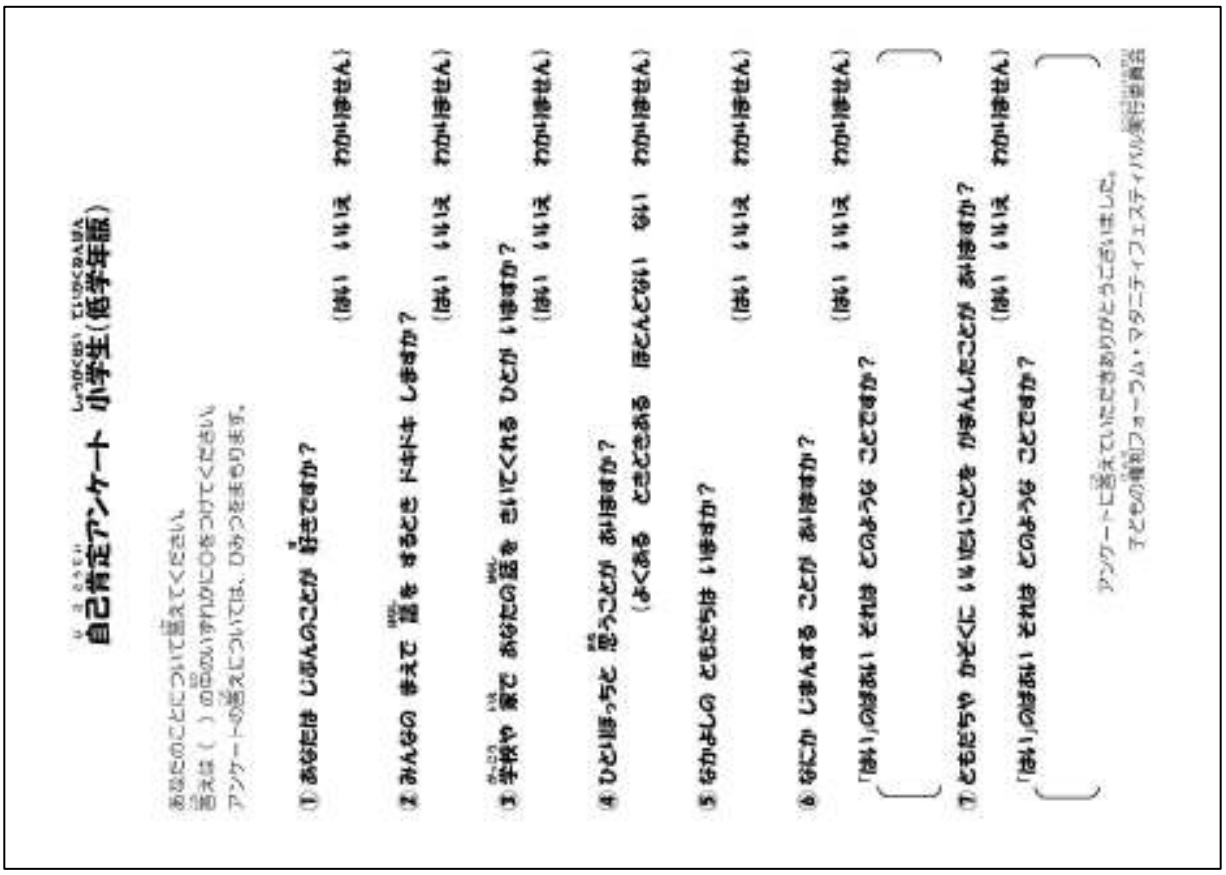
（小学校低学年⑦・小学生高学年⑥・中学生⑥・高校生③）

年齢層ごとにも分析を進めたところ興味深い結果がでた。それは（図９）の様に年齢が上がるにつれて“我慢”する率が凄く増加していること。小学校の低学年では５６%の人が自分の想いを伝えているのに高校生になると１０人の内９人が何らかの形で自分にブレーキを掛ける場合が多くあるのが分かる。それは単純に知識や経験が増える中で「発言していい事なのか？悪い事なのか？」をより考えるため発言する前に自己判断を行い話さずに我慢する場合があるからだと考えられます。

そもそも、“空気を読む”という事に誤解が生じているのではないだろうか？自分にブレーキを掛けながら辛い思いをして意識しなければいけない事ではないはずです。そして『当たり前』でもないはずです。知って頂きたいのは自分の考えや想いを話すというのは、自分を大切にする事になる。“我慢”せずに、自分の意見をしっかり伝える事！と沢山の人の意見を受け入れながら話し合っていく事が大切だ！ということです。時には仲間と意見がずれ、違う時も当然あると思う。決して恐れる必要はなく、思い切って話してみるのをオススメしたい。

実は高校生への設問(ｄ１)で周りの事を考えながら発言や行動をしているという高校生が８割以上いる現実が明らかになっています。“空気を読みながら行動しなくてはいけない様に感じる今の世の中で、自分の意見というものに自信が持てず話せなくなった人が増えました。しかし周りの為だ！と心に思いこむので、結果的に自分自身を見失い仲間に依存している事にも気づけなくなっている場合があるのではないでしょうか。自分自身は宝物。そして仲間の存在も凄く大切だ！思った事は伝え、自分や相手のことを認めあえる社会を作っていきましょう。

アンケート用紙　小学生（低学年版）・小学生（高学年版）



自己肯定アンケート　小学生（低学年版）

あなたのことについて答えてください。
答えは（　）の中のいずれかに○をつけてください。
アンケートの答えについては、ひとつをおもります。

① あなたは　じぶんのことが　好きですか？
（はい　いいえ　わかりません）

② みんなの　まえで　話を　するとき　ドキドキ　しますか？
（はい　いいえ　わかりません）

③ 学校や　家で　あなたの話を　きいてくれる　ひとが　いますか？
（はい　いいえ　わかりません）

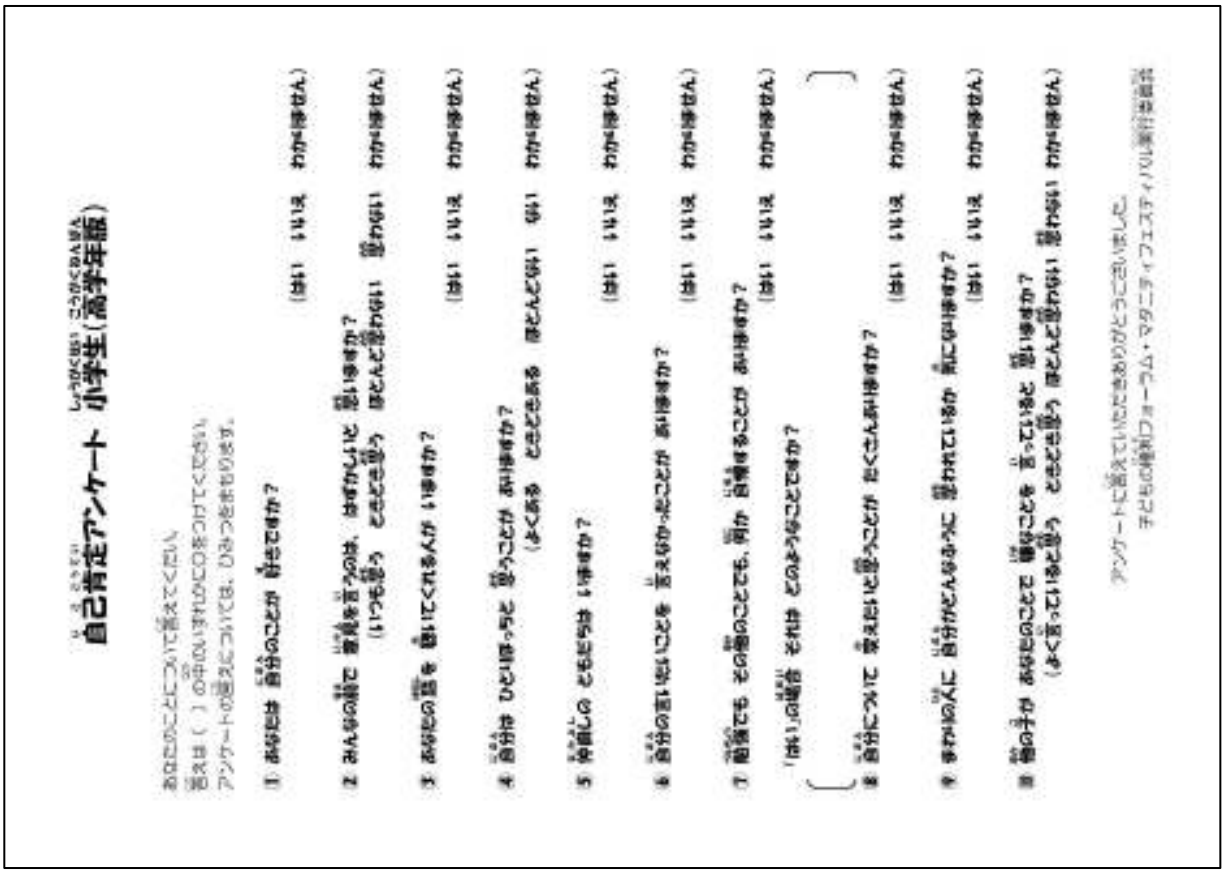
④ ひとりぼっちと　思うことが　ありますか？
（よくある　ときどきある　ほとんどない　ない　わかりません）

⑤ なかよしの　ともだちは　いますか？
（はい　いいえ　わかりません）

⑥ なにか　じまんする　ことが　ありますか？
（はい　いいえ　わかりません）
「はい」のばあい　それは　どのような　ことですか？
（　　）

⑦ ともだちや　かぞくに　いやだいことを　がまんしたことが　ありますか？
（はい　いいえ　わかりません）
「はい」のばあい　それは　どのような　ことですか？
（　　）

アンケートに　答えていただき　ありがとうございました。
子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル実行委員会



自己肯定アンケート　小学生（高学年版）

あなたのことについて答えてください。
答えは（　）の中のいずれかに○をつけてください。
アンケートの答えについては、ひとつをおもります。

① あなたは　自分のことが　好きですか？
（はい　いいえ　わかりません）

② みんなの前で　意見を言うのは、はずかしいと　思いますか？
（いつも思う　ときどき思う　ほとんど思わない　思わない　わかりません）

③ あなたの話を　聞いてくれる人が　いますか？
（はい　いいえ　わかりません）

④ 自分は　ひとりぼっちと　思うことが　ありますか？
（よくある　ときどきある　ほとんどない　ない　わかりません）

⑤ 仲良しの　ともだちは　いますか？
（はい　いいえ　わかりません）

⑥ 自分の言いたいことを　言えなかったことが　ありますか？
（はい　いいえ　わかりません）

⑦ 勉強でも　その他のことでも、何か　自慢することが　ありますか？
（はい　いいえ　わかりません）
「はい」の場合　それは　どのようなことですか？
（　　）

⑧ 自分について　考えたいと思うことが　たくさんありますか？
（はい　いいえ　わかりません）

⑨ まわりの人に　自分がどんなふうに　思われているか　気になりますか？
（はい　いいえ　わかりません）

⑩ 親の子が　あなたのことを　言っていると　思いますか？
（よく言っていると思う　ときどき思う　ほとんど思わない　思わない　わかりません）

アンケートに　答えていただき　ありがとうございました。
子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル実行委員会

自己肯定アンケート　中学生版

これは、テストではありません。まちがった答えはありません。このアンケートは、みなさんが幸せで楽しく生活していくために役立てます。答えについては秘密を守ります。あなたが思ったままのところに○をしてください。

①自分のことが好きですか？　（はい　いいえ　わかりません）

②自分について変えたいと思うことがたくさんありますか？
（はい　いいえ　わかりません）

③人の前でものを言わなくてはならないとき、いつも自分はうまくできないと思いますか？
（はい　いいえ　わかりません）

④自分に満足していますか？　（はい　いいえ　わかりません）

⑤あなたが認めている人がまわりにいますか？　（はい　いいえ　わかりません）

⑥あなたはまわりからいつもいい人に思われたいですか？　（はい　いいえ　わかりません）

⑦あなたを認めてくれている人はまわりにいますか？　（はい　いいえ　わかりません）

⑧あなたのまわりにあなたの話をよく聞いてくれる人がいますか？
（はい　いいえ　わかりません）

⑨自分の気持ちをわかってほしいと思ったことはありますか？
（はい　いいえ　わかりません）

⑩だれかからほめられると素直にうれしいですか？　（はい　いいえ　わかりません）

⑪自分の短所をなくしたいとよく思いますか？　（はい　いいえ　わかりません）

⑫自分の声や顔が好きですか？　（はい　いいえ　わかりません）

⑬自分が他の人にどう思われているか気になりますか？　（はい　いいえ　わかりません）

⑭自分はひとりぼっちと思うことがよくありますか？
（よくある　ときどきある　ほとんどない　ない　わかりません）

⑮あなたに話しかけてくれる人がだれもいなくて悲しいと思うことがよくありますか？
（よくある　ときどきある　ほとんどない　ない　わかりません）

⑯友だちがあなたより他の子を好きとわかったとき、すぐ新しい友だちをみつけなくてはとよく思いますか？　（よくある　ときどきある　ほとんどない　ない　わかりません）

⑰あなたはどうしたらまわりの人から期待される役割にこたえられるかを考えて行動する方ですか？　（はい　いいえ　わかりません）

アンケートに答えていただきありがとうございました。
子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル実行委員会

自己肯定アンケート　高校生版

こんにちは。このアンケートは私たちが、これから生活していく中で
とても大切なことや、忘れていけないことを確認して、振り返るために行います。
いくつかの質問がありますが、これは三重県で初めて、ふつうに生活している高校生が
思ったものであり、たくさんの思いや考えを大切にしながら作成しました。
このアンケートを見て、今までの自分を振り返るため、新しい自分作りへのきっかけになってくれたら、とても嬉しいです。

素直ではまる答えに○してください。□には質問に対して素直にお答えください。

【設問 a】　自信について

1．あなたは自分のことが好きですか？［ 好き・どちらかというと好き・どちらかというと嫌い・嫌い ］
2．あなたは自分に自信がありますか？［ ある・どちらかというとある・どちらかというとない・ない ］
3．自信の持てる部分は何ですか？
4．自信の持てない部分は何ですか？

【設問 b】　認め合うこと・本音について

1．あなたは自分の悩みや思春を素直に話せる人はいますか？［ いる・いない ］
2．「いる」と答えた方に聞きます。その人になぜ、話せるようになりましたか？
3．「いない」と答えた方に聞きます。誰かに話したいと思ったことはありますか？
［ ある・どちらかというとある・どちらかというとない・ない ］
4．あなたは本音を言い合える友達はいますか？［ いる・いない ］
5．「いない」と答えた方に聞きます。本音を言えない理由は何ですか？
6．自分と周りの間に壁を作ることはありますか？［ ある・たまにある・あまりない・ない ］
7．あなたは友達と一緒にいる時、偽りない自分を出す事ができますか？［ 出せる・出せない ］
8．その理由は何ですか？

【設問 c】　長所と短所について

1．あなたの長所と短所はなんですか？　長所（　　）
短所（　　）
2．自分では短所と思っている所を認められたことがありますか？
［ ある・たまにある・あまりない・ない ］

【設問 d】　周りと自分について

1．あなたは発言や行動をする時に自分だけでなく、周りのことを考えますか？
［ 考える・どちらかというと考える・どちらかというと考えない・考えない ］
2．その理由はなんですか？
3．あなたは周りの空気を読んで、言いたいことを我慢したことがありますか？
［ ある・たまにある・あまりない・ない ］
4．その理由はなんですか？
5．あなたは「空気を読む」ことをどう思いますか？
6．あなたは人に悩みを聞かれて困ったことがありますか？［ ある・たまにある・あまりない・ない ］
7．「ある」と答えた方に聞きます。その後、どうしましたか？

このアンケートは県内の中学生を対象に行いました。思いや回答は集計・分析後、報告書を作成します。
また、2月27日・28日に子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバルでもこの取り組みについて発表します。
ご協力ありがとうございました。　子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル　自己肯定アンケート実行委員会

子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル
～ 子どもの権利は胎児から、子育ち・子育て・子ども参画へ ～

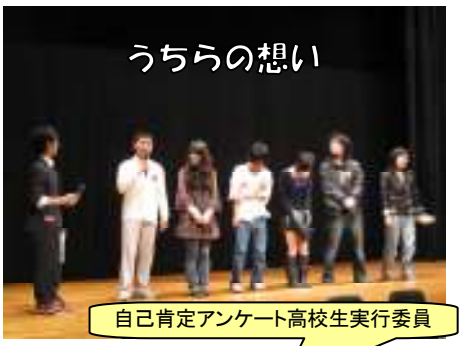
平成 22 年 2 月 27 日(土)・28 日(日)
三重県男女共同参画センター　フレンテみえ・知識の広場

趣旨、目的

①妊娠・出産に不安を持つ妊婦さんには、妊娠時からケアし、子育てに対しての不安を取り除き、虐待の予防、よりより親子関係づくりを進め、「子どもの権利は胎児から」ということを広く理解していただきます。
②市町の行政を含めた子育ち支援ネットワークの連携を進め、子どもを守る地域ネットワークの強化を図ります。
③子どもの権利が保障され、子どもたちが自己肯定感を持ち、希望を持って社会で生きていけるよう、地方自治体レベルでの「子どもの権利条例」制定に取り組みます。

■2 月 27 日 (土) 13:00～20:00　(18:00～20:00　交流会)

		13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
1F	多目的ホール	オープニング	仁志田博司先生「基調講演」					明橋大二先生講演		
	ロ　ビ　ー	ブース展示・ミニステージ・途切れのない支援・気持ちのポスター展								
	生 活 工 房	ブース展示								
	知識の広場	ブース展示・子どもフリーマーケット								
2F	セミナー室 A		お父さんへ ～赤ちゃんからのメッセージ～					お腹の赤ちゃんの気持ちになってみよう～すてきな部屋のなかから～		
	セミナー室 B		妊娠期からの楽しいふれあいあそび ・たまご			妊娠期からの楽しいふれあいあそび ・にわとり				
3F	セミナー室 C		いのちの授業・おへその不思議			心は胎児期に作られる				
	特別会議室	夢メッセージ展・こんな親になりたい色紙展								
	ﾌｨｯﾄﾈｽﾙｰﾑ		パパあそぼ！							



■2 月 28 日 (日) 10:00～16:00

		10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
1F	多目的ホール		マタニティコンサート					子ども会議					エンディング 自己肯定アンケート報告	
	ロ　ビ　ー	ブース展示・ミニステージ・途切れのない支援・気持ちのポスター展												
	生 活 工 房	ブース展示												
	知識の広場	ブース展示・フリーマーケット												
2F	セミナー室 A		パパあそぼ！ 妊娠期からの楽しいふれあいあそび ・にわとり					パパあそぼ！ 妊娠期からの楽しいふれあいあそび ・にわとり						
	セミナー室 B	お腹の赤ちゃんの気持ちになってみよう ～すてきな部屋のなかから～						命の声を聴く自己尊重トレーニング						
	ロ　ビ　ー							なんでも相談コーナー						
3F	セミナー室 C	いのちの授業・変化するからだとこころ		いのちの授業・変化するからだとこころ			お父さんへ～赤ちゃんからのメッセージ～	心は胎児期に作られる						
	特別会議室	夢メッセージ展・こんな親になりたい色紙展												
	ﾌｨｯﾄﾈｽﾙｰﾑ	カナダの子育て支援プログラム						カナダの子育て支援プログラム						

■子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル実行委員会構成団体

三重県小児科医会／三重県産婦人科医会／三重県看護協会／日本助産師会三重県支部／四日市市病児保育室カンガルーム／三重県立志摩病院／三重大学教育学部美術教育コース／高田短期大学育児文化研究センター／三重県保育協議会／三重県健康福祉部こども局こども未来室、こども家庭室／三重県教育委員会事務局人権・同和教育室／津市健康福祉部こども総合支援室／津市教育委員会事務局人権教育課／津市健康福祉部中央保健センター／松阪福祉事務所こども未来課／鈴鹿市健康づくり課／株式会社三重銀行 グループ／三重いのちを尊重する会／ヒーリング・ルームー☆ sa・ku・ra ☆ー地域で繋がる♪子育て応援サポートネットワーク Happy ☆ smile^^ ♪／特定非営利活動法人くわな子どもネット／子育ち広場∴ドロップin ／四日市まんなか子ども劇場／NPO法人体験ひろば☆こどもスペース四日市／特定非営利活動法人こどもサポート鈴鹿／特定非営利活動法人津子どもNPOセンター／特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター／特定非営利活動法人三重みなみ子どもネットワーク／特定非営利活動法人子どもステーションくまの／NPO法人チャイルドラインMIEネットワーク／特定非営利活動法人三重県子どもNPOサポートセンター

■発行

子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル実行委員会・自己肯定アンケート編集委員会

〒514-0125 津市大里窪田町 2709-1
特定非営利活動法人三重県子ども NPO サポートセンター
NPO 法人チャイルドライン MIE ネットワーク内
TEL.059-232-0270 FAX.059-232-0271 E-mail: mie-kodomo-npo@za.ztv.ne.jp